

まえがき

平成8年度に発足した本プロジェクトは、同年博士課程に入学した松澤和正氏のテーマを中心に形成された。このプロジェクトのねらいはインフォームドコンセントの成立条件を、歴史的、文化的、社会的側面と臨床的側面の双方から明らかにし、その意義を論ずることにある。このプロジェクトに平成9年同博士課程に入学した野崎亜紀子氏が加わり、今日に至った。精神科病棟に勤務する松澤氏は臨床経験、とりわけ「異文化」としての患者の経験の把握から問題を掘り起こすことを試みてきている。一方、臓器提供などの医療に関する本人の同意を問題にする際に、家族の立場を、特に法的にいかにかに考えるべきか、という点から医療・生命倫理学の研究を始めた野崎氏は、理論上の基礎研究を進めつつある。

本プロジェクトは松澤・野崎両氏の研究発表を中心として行われてきたが、学外の研究者熊倉伸宏氏（東邦大学医学部）、ヘルガー・クーゼ氏、ピーター・シンガー氏（両者ともオーストラリア、モナッシュ大学）等との意見交流によって知見を深める努力もおこたらなかった。

プロジェクト代表者 飯田 亘之・嶋津 格